

## 第6回安曇野市行政改革推進委員会 会議概要

1	審議会名	第6回安曇野市行政改革推進委員会
2	日 時	平成21年12月21日(月) 午前9時55分から午前11時13分まで
3	会 場	市堀金総合支所 3階301会議室
4	出席者	白澤亀内会長、浅川文彬副会長、小口憲政委員、尾台ゆみ委員、唐澤武志委員、佐々木一夫委員、武井辰雄委員、花村薫委員、林茂子委員、平倉重則委員、加々美孝男委員
5	市側出席者	西澤行政改革推進室長、等々力室長補佐、平林係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成21年12月25日

### 協 議 事 項 等

#### 1 会議の概要

- (1) 開 会 (浅川 副会長)
- (2) 会長あいさつ (白澤 会長)
- (3) 議 事
  - ・ 第2次安曇野市行財政改革大綱の素々案について
- (4) その他
- (5) 閉 会 (浅川 副会長)

#### 2 審議概要

副会長：委員12名のうち、本日は11名の出席であり、安曇野市行政改革推進委員会設置条例第5条第2項の規定に基づき会議は成立していることを報告する。  
同じく、第5条第1項の規定に基づき白澤会長が議長となり議事進行を行なっていた。

##### (1)協議事項

第2次安曇野市行財政改革大綱の素々案について  
事務局が第2次大綱の策定の必要性並びに素々案について説明する。

基本理念案 「市民の視点で新たな行政経営の創造」

- 基本方針案
- 1．市民と創造する市政運営の実現
  - 2．簡素で効率的な行政運営の実現
  - 3．効率的で質の高い市民サービスの実現

委 員：キーワードとしては、「合理化」「効率的」「簡素」等である。基本方針案の「2．簡素で効率的な行政運営の実現」と「3．効率的で質の高い市民サービスの実現」と2回「効率的」が出てくるのが気になる。3の「効率的で」を「迅速で」にしたらどうか。

会 長：少ない経費で質の高い最大の効果を挙げることが行革である。その行革の中で、キーワードとして「効率的」は良く出てはくる。

委 員：「行政経営」という言葉は語源があるのか。

事務局：現在では「行政経営」は、広く一般的に使用している。

委 員：「経営」とは、実際に事業計画を立てたり、目標を遂行すること以外にも、その上の意味合いがある。今回は、第1次の大綱を継承するというのに、「新たな行政経営」とは、抜本的、劇的に変化させていくイメージが強くある。かなり期待してしまうように感じる。

委 員：あまり「効率」ばかりが前面に出るのはどうかと思う。行政の根幹は、市民の生命・財産の保護と市民の生きがいある生活を支援し安心感を与えることだ。それから、高齢者が多くなっているの、なるべくカタカナ文字は余り使用しない方がよい。

委 員：「市民の視点で新たな行政経営の創造」の「新たな」であるが、第1次の大綱を継承するのなら、少し考え直したほうが良い。ただし、これまでの行政の運営方法とは、少し違った改革だということを市民にアピールする意味であれば加えてあっても良いと思う。

委 員：市民が受け入れ易くするなら「行政経営」より「行政運営」のほうが良いと思う。

委 員：基本理念のところ、クリエイティブ(創造)というよりも、行政運営は「改革」「革新」の連続だと思う。「創造」と「新たな」に違和感がある。理念としたら「市民の視点で更なる行政経営の革新」に留まるのではないかと。特別なことをやるとは捉えにくい。

会 長：基本理念のタイトルだけでいかに市民に理解いただけるかだ。第1次と第2次の大綱の違いもいかに市民に理解していただけるかだ。

委 員：前回の第1次の大綱の期間は3年であった。今回の期間は5年である。期間を長くする意味合いとして基本理念もマッチングするものだ。今の時代は、民間では、なかなか5年という計画は立てにくい。3年計画を立てても1年ごと修正する。行政には馴染まないことは理解する。しかし、なぜ5年としたのか説明がないと理解できない。

会 長：期間は市総合計画等にも準じているとも思う。事務局の説明を求める。

事務局：前回の第1次の大綱策定のときは、国から指針があった。「新たな大綱を策定しなさい。平成17年度を起点とし21年度までの具体的な取組み計画(集中改革プラン)を住民にわかりやすく公表しなさい。」というものです。当市は17年10月の合併であったので、18年度に策定することができた。全国の自治体は、3年、5年、6年、10年などと期間がちまちまちであり、実行計画を前期、後期と分けてあるところもある。市の総合計画は29年度まで期間があり、それに合わせると8年間ともなる。また、PDCAサイクルにより点検し見直しを図るものとします。

委 員：今の説明を聞けば理解できる。しかし、市民にはわからないと思う。なぜ5年間にするのか説明を付けて欲しい。

委 員：企業は、3年計画でも厳しい時代だ。それとは逆に、せめて行政は5年という長期的な計画を立ててやるんだという意気込みも欲しい。

委 員：第1次大綱の成果を簡単でもいいから記すべきだ。それは、市民にわかり易くするためでもある。また、大綱自体はやさしい言葉づかいとして欲しい。

委 員：先ほどの「行政経営」という表現は、第1次のときにふんだんに使っていた。大綱・実行計画をPDCAサイクルでまわしていくということだから期間も5年間でもよいと思う。

委 員：「新たな」の表現について、従来のものと全く違う考え方とを感じる。従来のものを押し進めるなら「更なる」でよいと思う。首長が代われば、市の基本的な方針内容も変わるようでは市民も戸惑う。国政のような政権交代の場合もあるだろうが、企業は経営者が代わると経営方針も変わるが、行政は、継続性があってもよいと思う。

委 員：基本理念中「新たな」を削るなら、「創造」も訂正が必要だ。

委 員：タイトル「新たな発展に向けて、改革の基本理念」の「新たな」も訂正が必要だ。

委員：市民が理解できるタイトルなら、「第2次の基本理念」だけでも良いだろう。

委員：更なる経営革新で、新たな発展のために取組もうということである。

委員：基本方針の「効率的」について、市民サービスを「効率的な市民サービス」とすると強圧的だ。「タイムリーな市民サービス」であるとか、「スピーディーに対応できるサービス」でも良いと思う。

委員：「迅速で質の高い市民サービスの実現」とも考えられる。

委員：市民一人ひとりがどの程度満足するかだ。不満が多いからいろんなことを言う。この基本方針では、「満足度の高い市民サービスの実現を目指す」とした方が市民にわかり易い。市民の視点に立ったうえで満足度を高めるにはどうしたらよいか、市側で考えれば良いと思う。

委員：「市民との協働」推進については、非常に難しい問題だと思う。広報などでその言葉は目にはしているが、実際には市民に理解されていない。市民との役割分担をわかり易くして進めて欲しい。役割分担とは、市民の負担ばかり増えると感じられている。行政がこのことを進める手法を持っているなら、「新たな」を引用しても良いと思う。

委員：市民にも汗をかいてもらわないといけない。

委員：年代とともに市民の考え方は変わってきている。我々の時代は、住民自治として、道普請や川普請など、自分たちのことは自分たちでやってきた。昔と今とでは、市民の理解度が違う。ここでは、基本理念についてだからこの文章でよい。住民の理解と協力が得られないと、市政の向上は有り得ない。

会長：基本方針「市民と創造する市政運営の実現」はこれでよいか。

委員：イメージは良いが、具体的にはどんなことなのかと理解に苦しむ。

委員：行革に、「創造」とは馴染まないような気がする。

委員：1次から2次になるなら「新たな発展」より「更なる発展」のほうが良い。

委員：基本方針「市民サービスの実現」は、「満足度の高い市民サービスの実現」のほうが良いと思う。役所に行っても「担当者がいないからわからない」という返事があった。担当者がいなくても即答できるように職員はもっと勉強会等をやって欲しい。即答があれば、満足度が高くなる。「担当者がいないから」では新庁舎を造っても意味がない。このことは、職員の資質の向上にも繋がることだと思う。

会長：素々案については、本日の委員の意見を参考に手直しをして欲しい。

事務局：委員からのご指摘や提言を尊重して、次回委員会では素案となるように内部で再検討を行ないます。

## (2)その他

- ・市ホームページの掲載事項を説明する。
- ・次回の委員会日程について確認する。

閉 会

副会長のあいさつで閉会となる。